

土木学会論文集F5（土木技術者実践）とは

- 土木に関わる諸事業が成功し、それを通じて公益の増進が図られたのであれば、そこには、各種の要素技術を総合化・統合化する「土木技術者」個々人の具体的かつ個別的な『実践』があったものと考えられる。
- 『実践』とは、創意工夫によって、各種の要素技術を総合化・統合化したり、新しい概念を形成したり、工学的判断を加えたり、関係者の合意形成を果たしたり、土木技術者の行動が実を結び、課題を克服し、公益の増進に寄与した過程や成果を言う。
- この『実践』においては、仮にそこで援用されている「要素技術」が標準的なものであったとしても、その組み合わせを含む『実践の全体像』そのものが「新規」なるものであり、そして、その実践が他に模範となり得るという点において「有益」なものである。

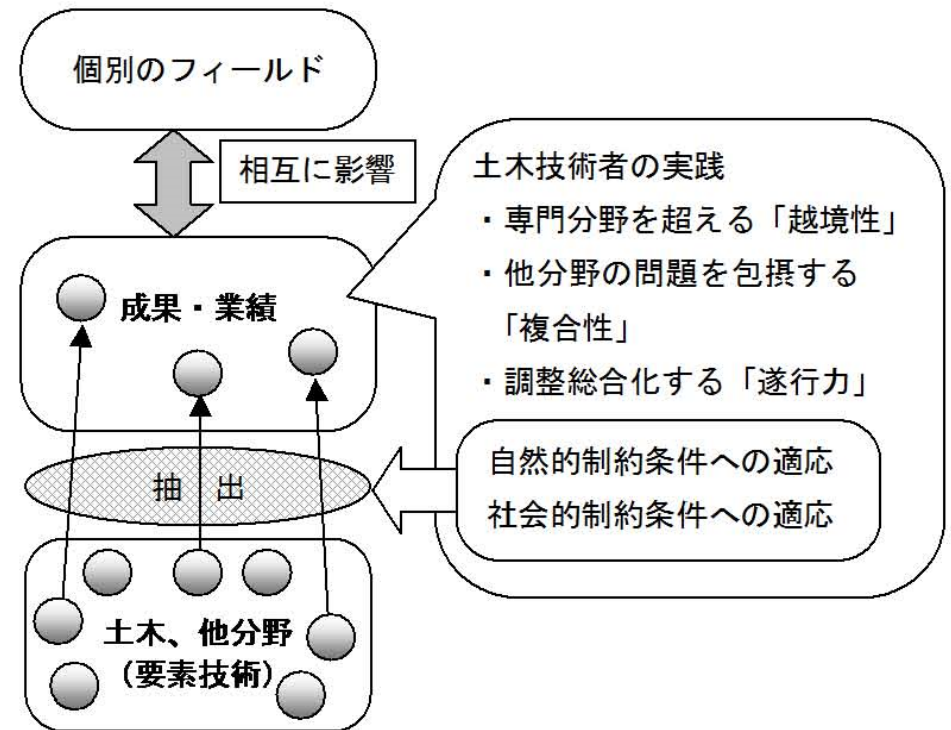
土木学会論文集F5（土木技術者実践）とは

- 「土木学会論文集F5（土木技術者実践）」は、そうした新規性と有用性を携えた土木技術者の実践を対象とした論文集であり、様々な現場において個々の土木技術者による『良質な実践』についての、当人、あるいは第三者による報告、紹介やその解釈、分析、評論を掲載するものである。
- 土木に関わる諸事業を通じて公益の増進を志す土木系技術者を輩出・育成するために、諸事業における技術者の『実践』に関する、他の模範となる有用性に富み独創性・新規性を持つ論文・報告の発表の場として機能することを目指す。
また、過去のベストプラクティスの研究も論文の対象とする。

土木技術者の『実践』とは

■ 既往技術の単なる「適用事例」ではなく、現場で様々な要素技術の統合化を試みた土木技術者個人の想像力の軌跡

■ 土木技術者が現場や地域、社会などの「個別のフィールド」に働きかけ、土木やその他の分野の要素技術を抽出し適用しながら、創意工夫と遂行力で自然的制約や社会的制約を克服し得られた成果・業績



対象とするフィールドに働きかける中で、自らもフィールドから影響を受け、その働きかけが変更される場合もある

投稿区分『論文』と『報告』

■ 『論文』

- ・ 実践を評価、解釈、分析し、他の参考や教訓となるような一般化や普遍化が求められる。
- ・ たとえば、「何が成功の鍵だったのか」、「何が失敗の原因だったのか」といった実践についての評価・解釈・分析や、それらの実践や経験を踏まえた提言・展望などについて記述されていることが望ましい。

■ 『報告』

- ・ 土木技術者の実践内容に関する客観的な記述が求められる。
- ・ たとえば、「なぜそのような目標を設定したのか」、「どんな工夫や働きかけをしたのか」などの『土木技術者の実践』について記述されていることが望ましい。